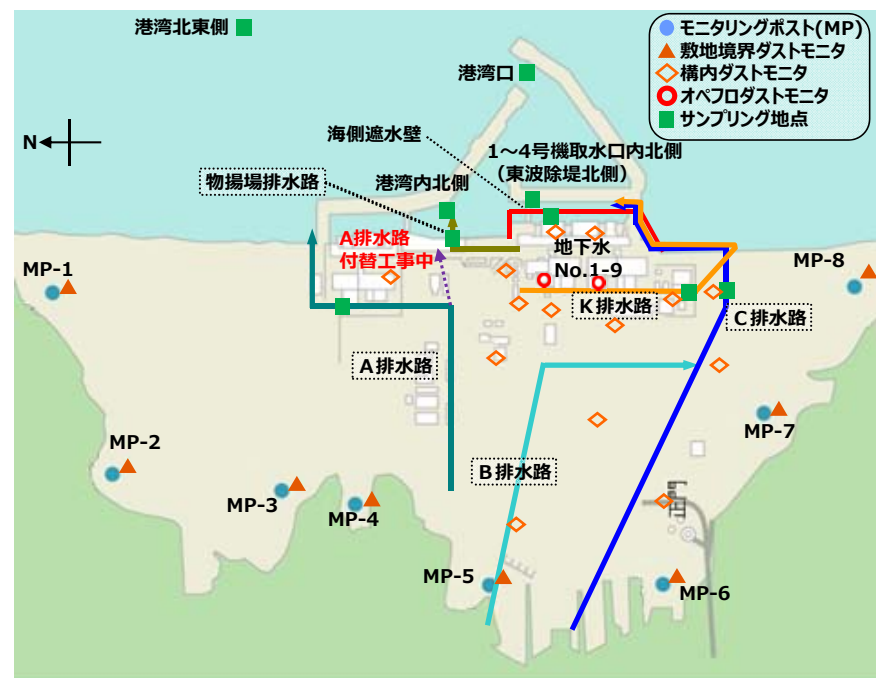
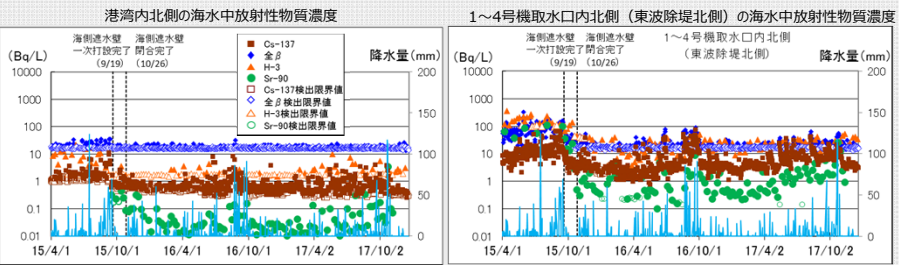


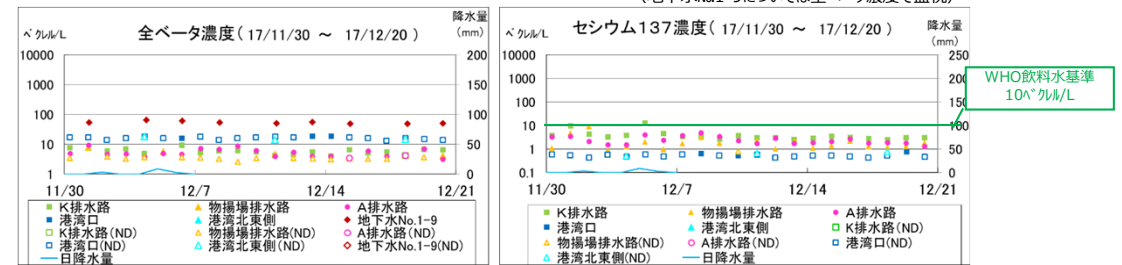
- 前回(11月30日)以降のデータ公開数は約4,600件
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約4,600件を公開しました。
- 敷地内ダスト(粉じん)濃度は安定
1号機では、原子炉建屋カバー解体工事において、2017年10月26日に防風フェンスを設置するために改良した柱・梁を設置、10月31日から防風フェンスの設置を開始し、12月19日に設置が完了しました。2号機では原子炉建屋屋根保護層の撤去、3号機では燃料取り出し用カバーの設置を順次実施しています。これまで、敷地境界を含め、敷地内ダストモニタのダスト濃度に有意な変動は確認されていません。今後も、飛散抑制対策の実施とともにダスト濃度の監視をしっかりと継続していきます。
- 港湾内海水の放射性物質濃度は低い濃度で安定
12月も降雨の少ない状況が続き、1～4号機取水路開渠内及び港湾内海水の放射性物質濃度は低い濃度で安定しています。引き続き、排水路の清掃や敷地全体の除染を行うとともに、港湾内の水質を監視していきます。



データ採取位置図(右のグラフA、B、Cは抜粋)

A 水(海水、排水路、地下水等)

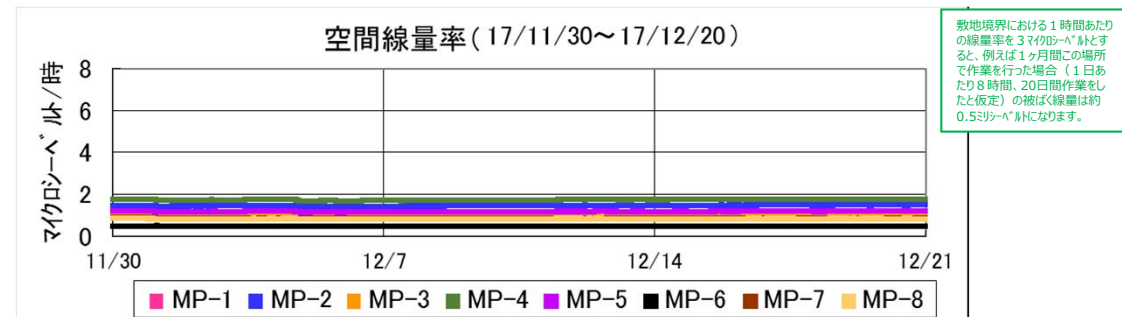
- K排水路では、降雨時にセシウム137、全ベータ濃度が上昇。
- セシウム137は、降雨時のK排水路を除き概ねWHO(世界保健機関)飲料水基準を下回った。
- 10月の台風後に、地下水No.1-9で全β濃度が100Bq/L程度まで上昇したが、海側遮水壁の内側であり、外部への影響は無いと考えられる。11月以降濃度は低下し、現在は50Bq/L程度。
(地下水No.1-9については全ベータ濃度で監視)



- 全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。カリウム、セシウム、ストロンチウム等が含まれる。
- 海水の全ベータについては、天然の放射性カリウムが約12ベクレル/L含まれている。
- (ND)は、不検出との意味で、グラフには検出下限値を記載。

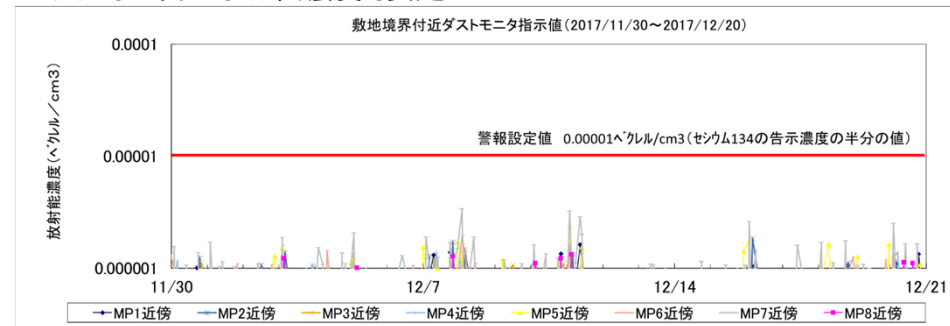
B 空間線量率(測定場所の放射線の強さ)

- 降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。



C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低濃度で安定。

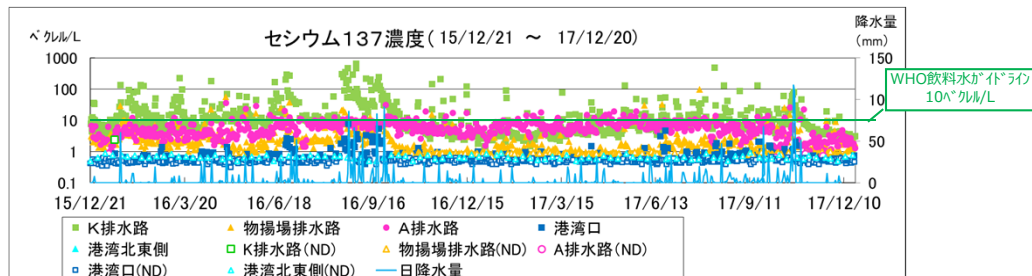
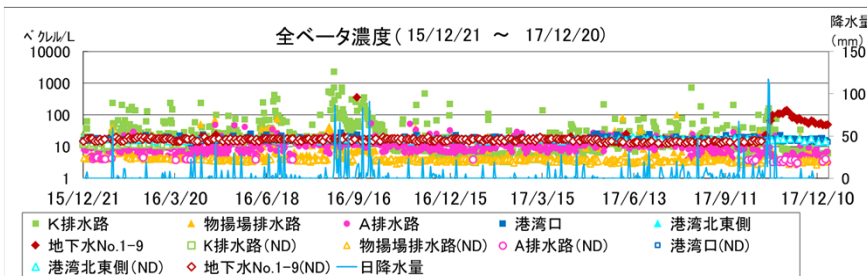


- 告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。

放射線データの概要 過去の状況

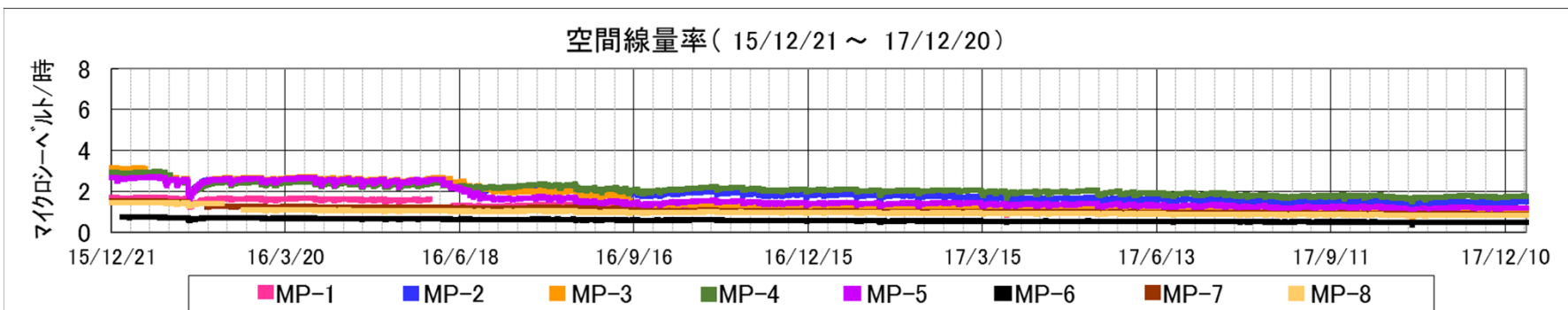
A 水（海水、排水路、地下水等）

- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未満。
- ・K排水路の降雨時の濃度上昇は減少傾向。引き続き清掃等の対策を実施中。



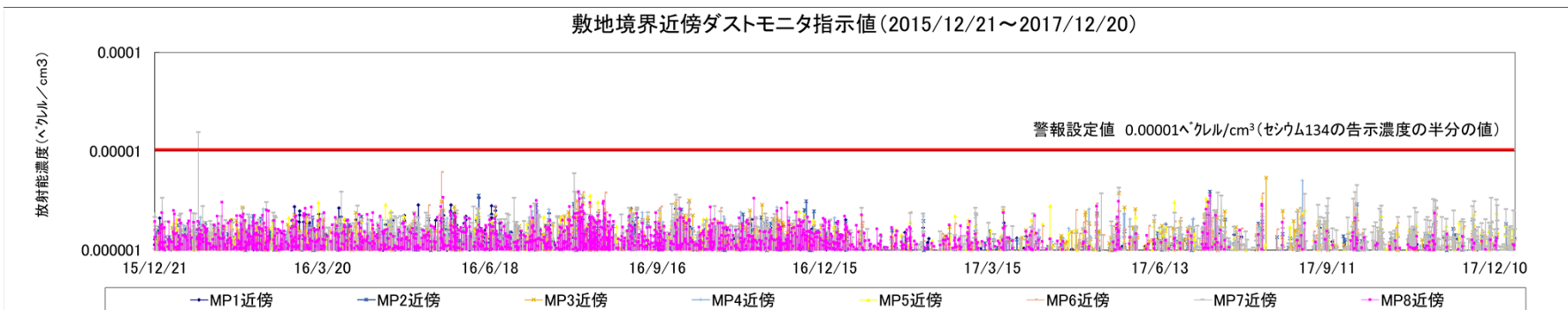
B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の半分以下に低下。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、2016年1月13日のMP-7の一時的上昇を除き、大きな上昇は無く、低濃度で安定。

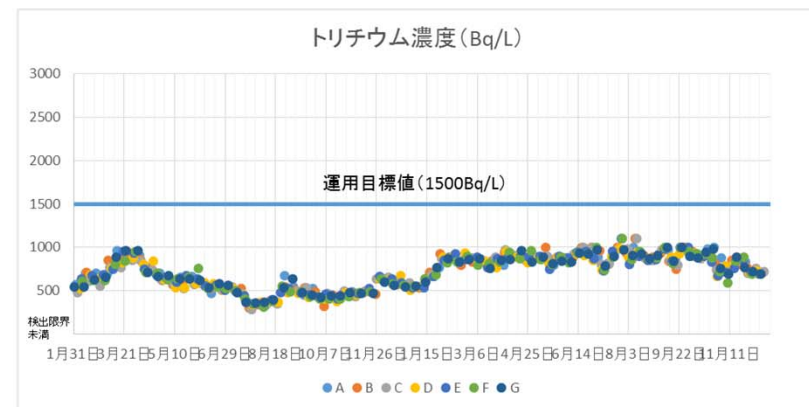
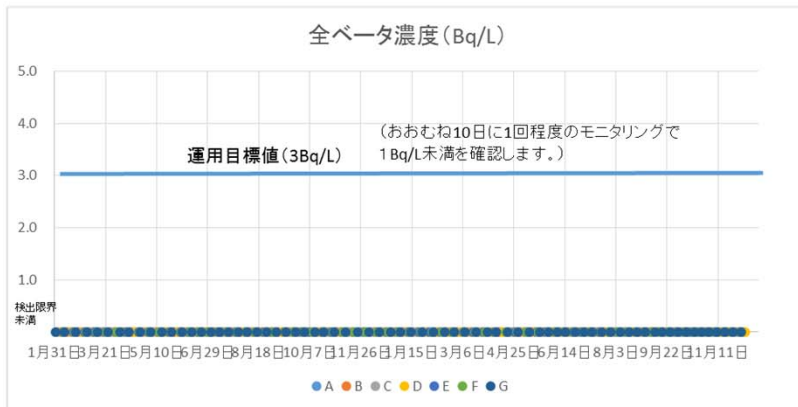
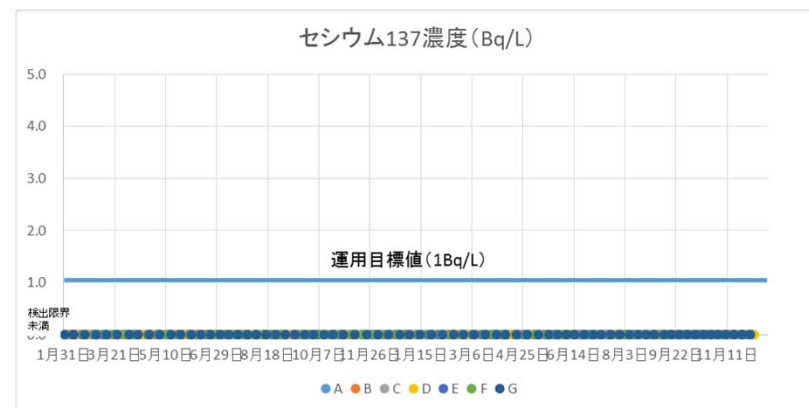
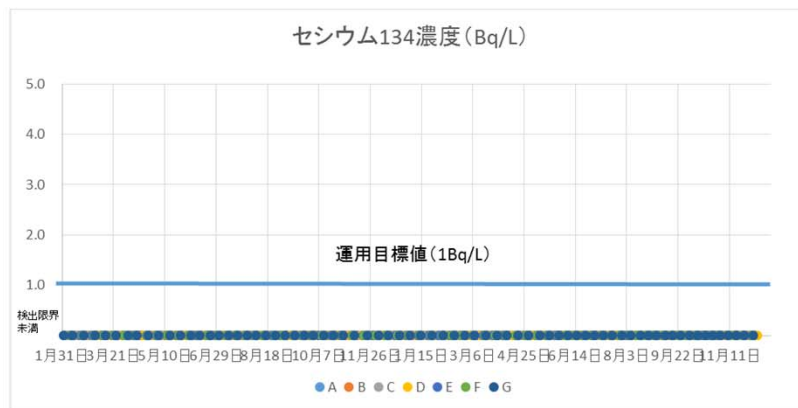


サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

- 一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果で、セシウム134、セシウム137、全ベータ（ストロンチウム等）、トリチウムが運用目標値を下回っていること、その他ガンマ核種が検出されていないことを確認しました。
- 同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、2015年9月14日から2017年12月20日までに合計580回、473,040m³を排水しました。
- 今後も、分析結果が運用目標値を下回っていることを確認した上で排水する運用を徹底してまいります。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommision/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd>をご覧ください。

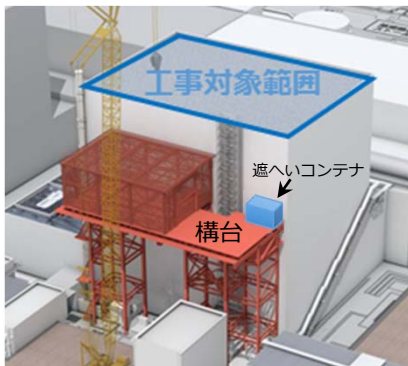
2号機 原子炉建屋屋根保護層撤去工事について

【目的】

- 現在、1～4号機周辺建屋屋上の汚染がれき等の撤去を順次行い、発電所全体の環境改善を図っている。このうち2号機原子炉建屋について、汚染されたルーフブロック等の屋根保護層の撤去を実施している。(①、②、③)
- また、廃炉作業をより安全に進めるため、落下リスクのある屋上外周の立ち上がり部材(笠木)の撤去も行っている。(③)

【作業内容】

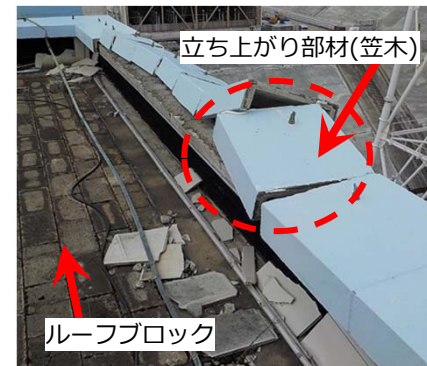
- 屋上外周部の笠木や屋根保護層は、遠隔操作重機による作業が困難なため有人作業を行う。作業員の被ばく低減および笠木の落下防止を目的とした遮へいユニットを設置し作業を行う。当該工事で対策を行わなかった場合の予想総被ばく線量255人・mSvが、遮へいユニット等の被ばく低減対策により約半分の128人・mSvにできる予定である。(④、⑤、⑥)
- 屋上中央部は、遠隔操作重機等を使用し無人で屋根保護層の撤去を行うことで、作業員の被ばくを低減させる。(⑦、⑧)
- なお、有人作業による屋根保護層撤去作業時には、作業前・中・後にダスト測定を実施する。無人作業時は屋上4か所に連続ダストモニタを設置し、作業中にダストを測定する。
- 2017年11月より、有人作業による笠木等の撤去を開始している。2018年1月より遠隔操作重機等による屋根保護層撤去を開始し、4月に完了予定である。



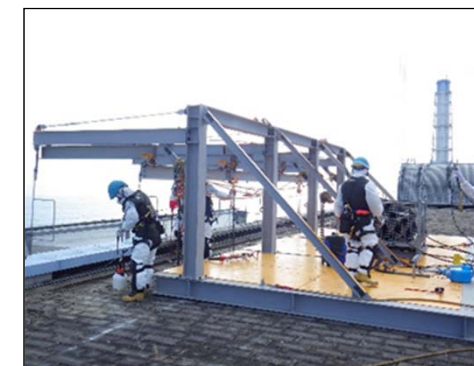
①工事範囲



②屋上の現況



③作業前の外周部状況



④遮へいユニットでの作業状況



⑤笠木等撤去後の状況



⑥遮へいコンテナ (構台上)



⑦遠隔操作重機 (集積)



⑧遠隔操作装置 (吸引)